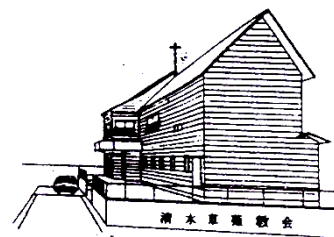


《今朝の聖書から》今朝は“キリストの弟子”ということについて思い出してみたいと思います。イエス様は弟子たちを招かれました。他の福音書にも等しく、このことはとても大切なこととして記録されています。“弟子であることへの積極性”についてまずみてみましょう。1:37に“この二人の（ヨハネの）弟子は、ヨハネがそう（神の子羊と）言うのを聞いて、イエスについて言った”とあります。実に積極的に、弟子であろうとしていたことが分かります。私たちも、弟子であることに積極的であることを恥じてはいけません。間違った“謙遜”について、カルヴァンは“神の御霊をもつことなしに、神のしもべとなろうと我々が欲するならば、それは、キリストの約束を疑いに引き戻すことでなくてなんだろうか。……。聖霊からその特別な御働きである信仰を我々が引き離すならば、それはこの御霊に不正を行うことでないだろうか（『綱要』Ⅲ 2—3 9）”といて、信仰の自信と、“作り上げられたへりくだり”の明確な違いを説明してえています。私たちが同じように考えるでしょう。“私は信仰豊かな人のようにはいかない”と言って、なんとかその場を切り抜けるようなことがあった思い出したなら、私たちとキリストの間には、大きな溝をその時に、感じていたことも思い出すべきなのです。最初に弟子となった人々はどうだったのでしょうか。38節をみましょう。“どこにお泊りですか？”と聞いています。真理とはいえないかもしれませんが、真実でした。その方のことが心にあったということでしょう。一緒に泊まることになりませんが、“信じる人”と一緒に泊まったということは、時間も正確に記録しておくべき大切なことだったのです。41節に進みましょう。アンデレはペテロに“キリストに出会った”と、ここでも積極的であることを失わず述べています。43節で聖書は、はじめてケパという言葉を用いています。この言葉は、ルカ 22:34に一回だけ“ペテロよ、あなたは今日三度、私を知らないと言うであろう”出てきますが、とても有名な言葉です。ときには間違いも犯すかもしれませんが、とても純粋で感じやすい“弟子になるのにふさわしい、積極的な人物”であることはイエス様は、知っておられたのです。その翌日、ガリラヤにイエス様は向かわれることになりませんが、ここでピリポに出会われます。ピリポはナタナエルに“私たちはキリストに出会った”と言いました（45節）。私たちがイチジクの木の下に座しているのを主は既にご存じなのです（48節）。

# 週報

2008年 1月 13日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。  
使徒行伝 16:31

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル会の	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

牧師 村上定幸